

第3回御嵩町総合計画審議会  
実施報告書（議事録）

平成27年6月  
御嵩町総合計画審議会事務局  
（御嵩町企画課）



## 議事録

### 1. 開会

#### ○企画課長

本日はお忙し中、お集りいただきましてありがとうございます。定刻となりましたので、これより第3回の御嵩町総合計画審議会を開催いたします。猪野委員は急きょご欠席とご連絡をうけております。それでは、はじめに会長の横山先生よりご挨拶を申し上げます。

### 2. 会長あいさつ

#### ○会長

皆さんこんばんは。前回までは現行の総合計画の反省点を含めて、良い点悪い点を含めて総括しました。これからの計画を作るに当たっての視点を出していただきました。今日は中身の方の議論となります。具体的な将来像、まちの姿について今後は回を重ねて検討しますので、忌憚のないご意見をいただきたい。

#### ○企画課長

4月の人事異動で私どもの企画調整係長が代わりましたので、自己紹介します。

#### ○企画調整係長

4月から早川の後任で企画調整の係長になりました高木です。この1年間、皆様とともに総合計画を作っていくと思いますので、よろしく願いいたします。

#### ○企画課長

(本日の資料の確認)

お手元の資料にしたがいまして、進めさせていただきます。活発にご議論をよろしく願いいたします。進行については、会長をお願いいたします。

#### ○横山会長

事務局の方から、資料1から説明をよろしく願いいたします。

### 3. 議事・意見交換

#### (1) 第五次総合計画 基本構想の構成について

#### ○企画調整係長

(資料1、2について説明)

#### ○横山会長

前半戦の議論としては、今お示しいただきました基本構想の構成について質疑等をいただきたい。

総合計画は今の時代の流れなどを踏まえ、そこにプラス、御嵩町自身の課題があり、課題に対応するために指針を示すもので、案として事務局がまとめたものである。中身については、資料を既にお読みになっていると思いますが、この点についてはどうか、もっと書く必要がないのか、内容が重複しているから削除もよいということなど、いろいろなご意見をいただきたい。

後半には、めざすまちの姿について、議論いただきたい。

まず、構成についてご意見、ご質問をいただきたい。

○水野委員

これだけきちんと示していただいているもので、何が良いか悪いか批評は出ない。

時代の潮流に合わせる事が、文言に当てはめられるということは、あまりにも時代が早く流れ過ぎて少子化は近々の課題になっており、何とか子どもの人口を増やすことを真剣に考えていったらどうか。

○寺尾委員

商工会の立場ですので、小規模事業者振興基本法が26年に施行され、小規模事業者への補助金制度が始まり、今までにない商工業者が活躍できる場ができてきた。「商工会、御嵩町が何もやってくれないからだめ」ということを言う時代ではなく、「こういうことをうちはやりたいから補助を」とやる側が問いかけていく姿勢が大事になっている。頭を切り代えて、自分の考えを打ち出して、それに対して支援。支援するところと協力して事業者が取り組む時代と思う。

○谷口委員

総合計画という中で、全体を見渡してという形で、今までの議論をまとめていただいている。

感想であるが、地域ごとの課題もあって解決していくのも大きな流れだろう。まちの主要課題では、安全・快適では亜炭鉱の対策、未来都市の形成をみすえた地域づくりは環境モデル都市が目標として特徴になっている。まちのめざすべき方向性を表していると思うが、この町をということで、全体を見渡した上での力点を置いた形が必要である。

○横山会長

資料3を中心にご意見をいただきたい。構成、潮流、課題がこれで良いのか。今日これで確定というわけではなく、これから検討する施策で変わる部分もあるが、おおまかな点で課題、構成で良いのか、計画期間は前回と変わらない考え方であるが、それで良いのか、ご意見をいただきたい。

○田中(尚)委員

観光部門として気が付いたこと。人口減が全国的な現象が進む中で、政府として思いもよらなかった発想で、免税店を空港など限られた所ではなく地方に増やして外国の方にお金を落としてもらおうような考え、施策を打ち出して、4兆円という大きな金を得ることをもくろんでいる。観光は地方自治体の生き残りの特効薬ではないか。御嵩町も町長も観光事業に力をいれていただき、われわれも町長の方針にしたがって取り組むことが必要である。

○横山会長

資料1時代潮流(5)のグローバリゼーションの進展と交流の時代に当てはまる指摘。その結果、将来像の中でまちの個性などにかかわることになる。

○田中(絹)

資料3、14ページの住みよさについて、住民では住みよい町と「思う」は58.5%、「思わない」は15.9%で、「わからない」は21.5%。住みよい町と「思う」は前回調査と差がほとんどありませんが、「思わない」が前回調査からという原因は。

1 ページに定住ということでは、住み続けたいと「思う」が 63.7%、「思わない」がわずか 5.5%で、「わからない」が 29.4%です。前回調査と比較すると、住み続けたいと「思う」が 9 ポイント程度高くなりました。中学生では「わからない」が半数を超えており、ずっと御嵩町に住みたいと「思う」が 23.6%と「思わない」 22.3%。63.7%の「思う」方の根拠は。

人づくりの推進というところで、関心を持った。これだけの人口であるからこそ良いことはあり、ご近所の底力があり、まちの将来を担う人材の育成と示されている。私はぼっぼかんに行っているが、若いママさんが多かったが、最近はパパさん、おばあさん、おじいさんも来ている。遊ばせておいてサロンでコーヒーを飲みながら、おじいちゃんが若い母親と対話している。小さな町でないといけない、本当の交流だと感じた。

毎年、よってりゃあみたけがあるが、昨年ベトナムから来ている女の子に浴衣を着せようということで、皆さんから寄付をいただいて着せた。すごく好評であった。海外から来ている研修生にもっと日本を知ってもらおうという企画が町全体としてあれば。外国人には御嵩町の行事は分からない、日本語も分からない、情報もほとんどないので残念。その中の一人で「日本の人と結婚したい」と言っていた。いろいろな思いで来ているので、どのようにして御嵩を知ってもらおうのか考えるとよい。今年も浴衣を着せて喜んでいただこうと思っている。

#### ○横山会長

同感であり、イクメン、三世代交流が大事。子育てというと福祉部局、教育は教育委員会と縦割りであるが、連携を取るともっと一緒にできることがある。外国人にも御嵩町を知る機会、地域学という学習機会も大事。

アンケート調査で分かる範囲は。

#### ○企画課長

第 2 回の審議会で配布しているが、概要を申し上げると、定住意向で住みやすさがこういう数字になったか。住みやすい理由は、緑豊かで自然がたくさんある、治安が良い、災害の心配が少ない、近所の交流が住みやすいという内容。住みにくいのは、垂炭など災害が起こることが心配、名鉄問題など交通手段が悪く町外に出かけるのが不便といったところが意見であった。

中学生も傾向的には似ており、緑豊かで自然がたくさん、治安が良いなどが住みやすいでは多い。住みにくいでは、買い物近くでできない、自然が多いが田舎であると、大人と子どもの意識差が出ている。

#### ○会長

その辺を踏まえた具体的な施策の展開が今後出てくると思う。

#### ○草田委員

子ども会として行ってきた行事で考えると、町の行事は伝わっているが子ども会の行事はなかなか浸透していない。子ども達ではなくて、親御さんなどに、広がっていけば町としては良くなっていく。

いろいろ行事をやっても人が集まらない、というところがあると思う。

#### ○横山会長

多くの自治体でも普遍的な課題である。右肩上がりの子供が多かった時代にできた組織が今も残っており、しかし担い手が少ない。地域の疲弊している。本当の意味の整理・縮小

することも必要であり、よいものにするスクラップ・アンド・ビルドが大事である。それぞれがやっており、人が集まらないと言っており、一つになったらどうかというそういう発想が必要な視点である。

○木村委員

小規模な事業者の一人であり、大きな店が一杯でき、八百屋などがなくなってきた。昔のように右肩上がりは終わった。子どもも少なくなってきたが、ゼロになるわけではないので、資料の中の身の丈に合った行財政が必要かと思った。お店もなくなったが、ゼロにはならない。地域の中で支え合っていくことが大事である。

幸福度はそれぞれ違って、御嵩町な御嵩町で幸福度を探すと良い。

○加藤委員

少子高齢化の中で団塊の世代が65歳を超えており、一人住まいの書類を出していただいているが、行政の出しているものと、私どものものと全然食い違っている。

難しことであるが、一人暮らしを簡単に分かる方法はないか。良い方法があれば、一人暮らしに訪問しやすい。こちらからからなかなか聞けない、守秘義務もある。

○横山会長

難しい時代となっており、具体的な施策で取り上げたい。

○鍵谷委員

前回欠席しましたので、一番最後に自論を話す。

○横山会長

行政改革も横串の重要なテーマだと思うので最後にご意見を。伏屋委員。

○伏屋委員

前日も発言したインター、バイパスの通りを何とか都市計画で御嵩町の新しいスタイルを考えていくのが良い。車で通り抜けるのみではなく、寄っていただく何かを町として考えて進めていただければ、いろんな面で御嵩町が良くなる。農業委員として、あの辺の土地の申請が出ているが、太陽光のみではもったいない。

○横山会長

都市計画もある程度この中で盛り込んでいく場合がある。平井委員。

○平井委員

時代の潮流と課題が記載されているが、(5) グローバリゼーションと交流の時代については、御嵩町の主要課題では踏み込まれていないのか。

主要課題の中で、若者向けの項目として、(5) 子育て・子育てができる環境づくり、(7) 若者が活躍できるしごとづくりが関連する内容であるが、まとめて分かりやすく、項目が並んでいたらと思う。

(5) 子育ての環境では、教育が言葉として入れられないか。

(9) 人づくりの推進で自治力、先程のご意見でご近所の底力が基本と思うので、自治会加入率がかなり低いとこともある。可児市では公表しており、40%から80%の自治会もある。

加入率が高いとボランティア活用などにも広がっていくと思うので、加入を進める施策をお願いしたい。

国際化については、東濃高校は海外籍の子どもが20%ぐらいで、ネイティブの英語や韓国語を話す子どもがいて、学校も地域に出向きたいという話がある。直接的に国際化ではないが、語学を利用したようなことで高校の存続につなげる施策もあったらどうか。

○横山会長

あくまで案ですが、グローバルゼーションについて、課題にないということであるが、どうお考えか。

○企画課長

この項目はない方がよいという意味か。

○平井委員

あえて抜いたのか、国際化でも語学を活用することもできるので、町としてどうされたか。

○企画課長

今年度の取組みで、今、日本ブームで外国人が中山道を歩くプログラムを外国の会社が行っている。春先や秋に毎週金曜日、欧州、アメリカ人が京都から動いてきて、名鉄で御嵩駅まで来て、御嶽宿を見て細久手宿まで歩く。馬籠、妻籠は有名で、フェイスブックで、日本で寝泊まりをするのが注目されており、昔からの町並みとして御嶽宿にも来る。

町長も、御嵩にある魅力を外国人にPRしていく活動を進めている。海外の人に対応できるように、プロモーションや表示看板を変えていく活動を始めている。外国人の誘客も視野に活動をしており、御嵩にもぜひ取り入れたいということでグローバルゼーションを示している。

東濃高校もその存続が名鉄の存続にもつながるので、高校生のネイティブな言語を活用することも、授業枠、観光客の来る時間が日中ということがあがるが、活用できたらと思う。

○平井委員

主要課題に取り込むのかどうか。

○企画課長

そういったことについては、今日、ご意見をいただいたのでそれを踏まえていく。

○横山会長

自治会問題も普遍的な問題で、自治力をどう向上させるのか、子ども会をはじめ既存の組織の負担が多い。「やってください」オンリーではなく、負担を減らさないと地元でこうして下さいのみでは立ち行かない時代になっている。一体となって考えていくべき時代と思う。

○谷口（鈴）委員

第四次まで時代背景が明確に出ている。第一次、二次は経済成長をバックボーンとした流れの中で整理しており、そのための志向。第四次になると宿場町、観光、環境面に軌道修正があった。第五次の時代の潮流は今の時代を反映しており、今後10年間この町をどういう方向で経営するか基本になる。

この7項目の潮流は的を射ている。もう少し強調したら良いのは、若者の将来的な定着を図っていくこと、子育ての環境を改善すること。背景には地域の活力がないと達成できない。人口維持を含めて、その背景に御嵩町が有する工業生産力。ほかにいろんな要望が出てきて、十分満足できる状態を実際にこの町でできるかと言う視点が欠けている。

昭和50年ごろ、工業団地は東海環状が構想された時代、175haを計画して、周辺地域の労働力を集約できるようなものをつくり、亜炭産業で賑わったものを工業で再生しようという計画があった。そういうことが今、全く消えている。グリーンテクノは完売したが、ある時期には負の資産と言われてきた。長期的な視野では、雇用も含めて貢献するものが必要で、子ども達がこの地に定着するには、仕事が確保できるような部分を少し強調してもよい。

工業誘致と書いてあるが、工業を誘致する用地が町内にあるのではということを示して可能性を残していく。総合計画に書かないと町ができないので、可能性を残しながら策定いただきたい。時代の潮流であると同時に、町の課題に明確に位置付けていただきたい。

広見線も未来永劫赤字負担を続けるわけにいかない。名鉄との協議、近隣との協議の中で、中部圏の広域交通圏まで話を持ち出して、沿線を中央線まで開放していくところまでリンクできていくのではないかな。町東北部の過疎化を解消する、上之郷の人口定住につながる夢になる。そういう視点を少し出してほしい。

#### ○横山会長

企業誘致は大事な視点である。どこの場所まで書くのは問題になる場合もあるが、ご指摘の視点はこれからも大事である。

#### ○岡本委員

資料3で、16ページに自慢できること、住民、中学生ともに自然、次いで歴史文化が多い。御嵩の個性を出す場合には、自慢できることに重点を置いて考えたい。主要課題で、歴史文化の記述が足りない。(1)ファンづくり、(7)しごとづくりでは、歴史文化が出てくる。自然も一番であるので、自然環境を文言としてどこかに含めていただきたい。

高齢社会を迎えているが、本当に自治力や地域で支え合うは課題になっている。介護保険でも要支援1、2を町内で支えていくのが課題になっているので、協働で進める視点も入れていただけると良い。

資料3(5)で教育が入れられないかという意見があったが、教育委員会の「夢プラン」の会議にも出ているが、教育の分野の総合計画をつくるが、教育をここでどう織り込むのか。

#### ○横山会長

地域に愛着、誇りを持つ人材を育てるのは教育委員会のみの問題ではない。あらゆる分野にかかわることで、基本中の基本である。大きな視点で持つべきである。

教育振興計画との整合性も総合計画の中で踏まえていく。

#### ○鍵谷委員

前回欠席したので最後にとということをお願いした。平井委員、谷口委員、岡本委員のご意見で、積極的な対応を。全体的に現状分析がされているが、それ程感銘を受けたものではなく、行政が一つずつ事業計画に入れるには、若干積極性の軸が薄いと思った。

この機会に教育のことで、申し上げたい。行政改革推進委員会が3月9日に開かれ、その中の委員の意見の8割はこの中に取り込まれている。上之郷の委員から、「実は二世帯住宅で、夫婦が学校教育を見て、環境は良いが学校教育は現状のままかということでは問いかけたら統合

の計画はない。今のままの学校教育では伸びないので可児市に住居を構えた。親として残念だが、これが現実ではないか。」という声があった。何とか御嵩町がこういった問題に手を入れないと、少子化、人口減少のこの現実を綱木小学校が上之郷小学校に統合された時、上之郷に来たのと同じぐらいの人数になっていく。上之郷小学校がこうなる時に、この問題にふれるべき。

町長は町独自の教育行政を進める、という熱意や決心は聞いた。そこに子どもの親が判断することは、自分の子どもの将来を考えたらここには子どもを預けることができない。こういう判断をもっと真剣に考えた取組みが必要である。

同じことが共和中学校で起きている。孫が中学に入っておりが、昔、兼山と伏見が統合されたが共和中学校でも部活が限られており、その中で自由選択。孫は、小学校3年生からバレーをやっており、子どもは美濃加茂中学校へ行きたいということであった。義務教育を完遂するというので、共和中学校に行かせたがバレー部がなかった。笑いごとではない現実が、共和中学校でもはじまった。現状を見ながら、総合計画の中に学校教育の中にビジョンが出てこない。人口減少は大変なことになると総合計画に盛り込んで、教育関係者はその問題に積極的に当たってほしいという発信をするべきである。どこかで統合問題について対応していかないと、そこに住む人の教育を御嵩町が考えていないということになる。子どもの親、若い夫婦が判断することがもっと大事なこととして、行政改革委員会で切実な発言があった。共和中学校の整理統合で、顔戸などを統合して適正規模の学校教育の場にしていかないと、伏見と兼山生徒数のみでは部活ができない。向陽中学校のみが機能している学校教育の場になっていく。

県内のみの農協は、学校の統合問題を検討している。ふれてはいけない問題を少しずつふれないといけない。少子化の原因は、教育の場があまりにも早く衰退していることに歯止めがかからない。学校の先生を増やし大規模学校の時代から、先生が余ってしまうので現状維持という国、県の政策が中途半端になっている。関市、美濃市、郡上市の議員は、学校を何とか整理統合という言葉を使っている。

少子化、人口減少の原因は、自分達の子、孫に最初に来ている。行政がテコ入れするプランを提示する必要がある。車社会であり可児市でもどこでも通わせることができる時代であり、踏み込んでいただきたい。

#### ○横山委員

これから具体的なことに入ってきますので。

#### ○平井委員

一部の家庭を取りあげて、その意向で全体を語らないでいただきたい。

上之郷は十分に行き届いた教育ができていると思う。適正規模はその話で考えていくことで、今の学校教育が限界ではない。

#### ○鍵谷委員

上之郷のことで適正ではなかったら取り下げるが、私が中学校時代と比べて、共和の現実には生徒数が減少しており、先取りも必要と考えた。

#### ○横山会長

センシティブな問題であり、賛否両論あり、町民全体の議論を喚起するのは重要である。具体的な施策の中で議論したい。それでは、後半部分の将来像について

## (2) 第五次総合計画の目指す姿、将来像について

### ○企画調整係長

(資料4の説明)

### ○横山会長

前段を受けて、審議会、中学生ワークショップ、まちの種みつけ隊の意見から、目指すまちの姿を5つの柱に集約している。総合計画をつくっていくのに際しては、柱立てが必要になる。この柱で良いのか、5本の中で特に感じる事など、ご意見を。

### ○水野委員

「まちづくりを担う人材が育つ地域社会」は、問題であり、そんなに若い人がいるわけではない。地元で働いて、収入が得られる地域社会ではなくなっている。

教育問題でも、東濃高校、実業高校があるが、頭の良い子は行かない。どうするのか、頭の良い子をどう残すのか、それには地元で収入の得られる企業を誘致する。御嵩工業団地は事務局ではなく工員のような人が多く、本社勤務の従業員の給与とは雲泥の差がある。そのギャップをどう現実的に埋めていくのか。頭の良い子が御嵩に残らないと発展しない。どう解決するのはどうしたら良いのか。小さい頃から御嵩に居続ける人材を教育していくことが一番大事と思う。

### ○横山会長

今日の会議のみでは全部出るとは思わないので、今後、具体的施策を考える時に議論したい。

### ○寺尾委員

「安心して快適なまちの個性が生きる地域社会」、で今は工業が力を付けてきており、新しいものをつくりながら、その人の個性もいかしたものが出来ている。快適なまちの個性が生きるということを取り入れてやっていく町にできれば。

### ○谷口(清)委員

まちをつくるのは人であるが、「生涯にわたり学びの機会があり」ということで、それぞれの立場の人がいきいきすることが町として一番大事である。その中で学ぶ機会があって、向上していく機会があって。人が最大の資源になるこれから10年で大切なことなる。

私も企業に勤めて、新入社員、ほかの社員が少しずつパワーアップしていくことがあるべき姿、そうした視点が必要になっている。

### ○田中(尚)委員

左下4行目で「このまちにしかない資源を生かす」と示している。今年は、町政60周年であり、こういう機会に、願興寺が中山道より古い歴史があり、中山道はその後でできた勉強し、小さな町で二つの宿があることは御嵩にとって大きな財産であり宝である。

総合計画審議会中で、多くクローズアップして、御嵩の特徴として、地域、行政、県・国にもアピールして、何らかの補助金もいただき、もう少し効果的に見直せるようなPRを工夫していくことが必要である。

○田中（絹）委員

わいわい館、あつと訪夢といういろいろな小さな施設があるが、高齢者が主体となつての行事が多く、若者との接点が少ない。わいわい館でも高齢者が主体となつての行事が多い。若い人を取り込んで接点を作っていくことが大事。

若いお母さんが子どものうんちが出なくて泣き面の人がいて、こうすれば出るとサポーターの人が教えて安心して帰る。御嵩は小さな町なので、若いパパ、ママが交流できることが大切である。

○草田委員

中身を見ると、人につながることであり、人をどうやってつなげていくのかを考えていく必要がある。教育、高校生などをなるべく使えるような。御嵩町によその地域からも来ている子もいるので、どうしたら御嵩町に住んでくれるのか、残っていただけるのかを考えていくと、違った点が出てくる。

○木村委員

御嵩町はゆったりと時が流れる。良い面は、中では分からず、戻って来ると良いと感じる。定住するのに良いところであるが、子どもの教育という少し課題があると思う。外に出た娘は御嵩町に住みたいと言っているので良いところと思う。

○加藤委員

野球場はセンターが狭くてプロ野球は呼べない、高校野球も予選ができないので、予算があればメンテして、誰でも来てもらえるものにしてほしい。

南山公園の桜はきれいなので、もっとPRいただくとういと思う。確かにきれいであり、何かPRすれば、桜祭りなどをやれば人が集まると思う。

○鍵谷委員

特にありません。

○伏屋委員

資料4にほとんど出ているが、御嵩町は亜炭の町で全国に知られており、埋め立をしているが、見ることができる施設を御嵩町の観光の一つに入れると良いのではないかと。逆手にとって、御嵩が栄えた資源も残すことも大事。

まちのたね見つけ隊に出ているが、文化施設を作る。こういうものができれば、自然と広見線利用者が増えると思う。21号バイパスで東海環状から降りる、来ていただいて、金が落ちるためには施設が大事である。

○平井委員

この5つの視点は、何かに乗ることではないですね。

○横山会長

柱になって章立てとなる、これから分野という意味である。

○平井委員

読めば総花的に網羅しているが、イメージがぱっと入って来ない。たとえば、選択される

まち、生かすまち、つながるまち、集まってくるまちというエッセンスの上で、説明文としてこういうのがあった方がよい。同じようなことを言っているような気がするし、全然、整理がつかない。

#### ○横山会長

網羅して長くなっていると思うが、もう少し整理する。

#### ○谷口（鈴）委員

視点については見えてこない。項目それぞれは、人によって、かなり取り方が違いどのようにも取れる。地域資源という場合、御嵩町の地域資源は何か、もっと掘り下げて考える必要がある。豊かな自然環境は、山があるので豊かなのではなく、荒廃している。たまたま中山間地域で山岳地域が広いということのみである。森林から材を切り出して、有効に商品化することは全くない。せいぜい間伐かけて切り売りする程度、チップ材にする程度。まちの実態に依拠したものの考え方を入れるべき。

そうでないと、今までの総合計画のように総花的になる。実践的な、行革審の提言内容がスライドするようなことから遊離してします。

町の個性は何なのか、資源は。歴史的な史跡が資源か、それとも、そこに住む人の知恵、文化が資源なのか、曖昧な部分がかかなりあり、並べても難しい。

#### ○岡本委員

美しい言葉が並んでいるが、どこの町にも当てはまりそうな感じである。

総合計画は義務的なものではなく、町の個性を出していこうという最初の話が出た中で、あまりに漠然としている。具体的に広げるのであろうが、ちょっとどうかと思った。

地域資源、このまちにしかない資源、願興寺、二つの宿場町など具体的なことを煮詰めたかどうかというご意見があった。具体的なことを示したらどうか。全体に共通することは人づくりであり、もう一つ焦点を当てたものが良いと思った。

年代の上の方は御嵩町をそんなに良く評価していないが、若い人は評価が割と高い。これから先、御嵩町を考える上で見捨てたものではない。人づくりという視点で、人に焦点を当てた取組みを具体的に行えれば良いのではないか。

#### ○横山会長

今回はこれで終わらせていただきたい。

今日の議論を聞いて、大きく分けるとソフトとハードのふたつの側面がある。人づくりはソフト、企業誘致、学校施設の統廃合はハード面の問題であった両方の観点を分けて議論していくことも大事と思った。

今後、ご意見を踏まえて、目指すまちの姿。資料4は配慮して抽象的になったと思うが、これから議論していくなかで具現化していくと思う。総合計画にはうたえない限界があるが避けては通れない問題についても、ここで全体的な議論を促す意味では挙げていく必要がある。

6の基本構想実現のためにでは、おそらく想定しているのは横串で市民協働を進める、行革などと思う。今日、出てきたのは人づくりという観点、ぜひ横串に入れていただきたいそれでは、事務局にお返しします。

○企画課長

最後に副会長、どうぞ。

○中島副会長

みなさんの意見を聞くと、個別の計画の意見が多いが、それをうまく汲み取って、総合計画を事務局にうまくまとまていただきたい。

#### 4. 閉会

○企画課長

ソフト、ハード面を分けて検討したり、個別の実施計画にも関係するが、大きくいろいろなものを見据える中で、雇用、企業誘致というご意見をいただいた。なかには住民がやりたいことを支援すること、御嵩の個性をどういかしていくのが総合計画となるということもあった。今日ご議論いただいた中で、次回には資料2の後段、冒頭で基本構想実現のためにまでを文章化してお示ししながら、意見をいただいて総合計画を皆さんでつくっていききたい。

次回は7月の後半を予定しているので、お忙しいと思いますが、よろしく願いいたします。

本日はこれを持ちまして閉会させていただきます。

以上

